

水土里ネットの和

発行：水土里ネット和歌山（和歌山県土連） 和歌山市雑賀屋町1番地
会長：二階俊博 TEL：073-432-2567 FAX：073-433-1490



上曾池（紀の川市桃山町）にて現地相談

主な内容（CONTENTS）

○新年のご挨拶	2
二階俊博水土里ネット和歌山会長	
進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問	
宮崎雅夫全国水土里ネット会長会議顧問	
○土地改良区職員研修会	5
○全国土地改良大会（群馬大会）Web開催と表彰伝達	6
○和歌山県棚田シンポジウムの開催	7
○第2回和歌山県土地改良事業団体連合会 監事会、理事会の開催	7
○全国農業農村整備の集い（11月）	8
○令和4年度農業農村整備予算の確保に向けた提案活動	8
○水土里ネット和歌山女性部会の総会及び研修会	10
○令和3年度補正、令和4年度当初予算の概算決定	10
○ため池サポートセンターの活動状況	11
○水土里ネット和歌山からのお知らせ	12



新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会
和歌山県土地改良事業団体連合会
会長 二階 俊 博

令和4年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染が世界各国で拡大する中で、新しい年を迎えることとなりました。我が国では、ワクチン接種が進み感染者数は減少しているものの、世界的には変異株の感染が拡大し予断を許さない状況が続いております。

皆様には、感染防止のためにできることを今一度ご確認ください、コロナ禍を共に乗り越えて頂きたいと願っております。

さて、昨年3月に新たな土地改良長期計画が策定され、3つの政策課題に取り組むこととされました。生産基盤の強化による農業の成長産業化、多様な人が住み続けられる農村の振興、農業・農村の強靱化といった政策課題に対して具体的な施策が定められ、中でもスマート農業実装の加速化、ため池の防災対策の集中的かつ計画的な推進、流域治水の推進は、今後の農業農村整備を進める上で大事な要素となってくるものです。

令和4年度予算につきましては、これらの政策課題の解決に向け、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案において、4,468億円を確保することができました。この結果、令和3年度の補正予算を含めると6,300億円となります。

皆さまの活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

一方、第5次男女共同参画基本計画に続き土地改良長期計画においても土地改良区等の女性理事登用が成果目標とされたところであり、我々、土地改良団体においても将来の組織体制強化のためにも、女性参画を進めていかなければなりません。

私たち土地改良に携わる者としましては、政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におき農業農村の振興に積極的に貢献していくことが重要であると考えております。また、農業農村の維持、発展に大きく貢献していることについて広く国民の皆様へアピールし、共感を得ていく努力も必要であります。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう引き続き奮闘して参りたいと思います。

また、土地改良の代表として進藤金日子参議院議員と宮崎雅夫参議院議員が元気に全国を飛び回り、まさに「車の両輪」となって活躍されています。本年は進藤さんの2回目の闘いとなりますが、今後は、進藤さん、宮崎さんの活動と連携して、更に一層「闘う土地改良」の浸透が図られるよう念じております。

最後になりますが、輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様各々の地域において更に農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、新型コロナウイルスの不安が払拭され、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げます、私の新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 進 藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は、和歌山県の皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。本年も何卒宜しくお願い致します。

私も皆様にご支援をいただき国政に送り出していただいてから、早5年半が過ぎました。土地改良予算の動向を報告し、私なりの政治スタイルを再確認しながら次のステップを展望してみたいと思います。

昨年末には、令和3年度補正予算が臨時国会において可決、成立しました。土地改良予算は、総額1,832億円（TPP等対策：774億円、米対策：46億円、国土強靱化5か年加速化対策：1,012億円）です。令和4年度当初予算政府原案での土地改良予算は4,468億円（令和4年度からデジタル庁計上となる政府情報システム予算を含む。）であり、令和4年度の予算額は補正と当初を合わせて6,300億円となり、本年度と同水準の予算が確保できる見通しとなりました。主な事業制度の新規・拡充事項としては、①農家負担がゼロの「農地中間管理機構関連農地整備事業」の工種に農業水利施設や農道、暗渠排水等を追加（現在は区画整理と農地造成のみ）、②「農地耕作条件改善事業」の助成対象に田んぼダム導入に係る調整活動や畦畔補強等とともに除草機器を追加、③省エネ化・再エネ利用に取り組む「かんがい排水事業」の事業費要件や末端要件を緩和、④「土地改良施設維持管理適正化事業」に「防災減災機能等強化対策」（防災・減災機能の強化、施設管理の省エネ・再エネ利用や省力化を図るための施設整備）を新設（国費率を従来の30%から50%に嵩上げ）、⑤「土地改良区体制強化事業」の助成対象に小規模土地改良区の業務再編を追加することなどが挙げられます。

私は、これまで全国津々浦々を訪問し、現場の実情を視て、現場の声を聴いて、それらを国政の場に届け、課題解決の実現に努めて参りました。私自身、現場目線、国民目線での政治こそが、いま強く求められていると痛感しています。こうした活動が事業制度の新規・拡充要求に繋がっているものと確信しています。和歌山県内にも度々訪問し、色々なご指摘や多くの要請をいただきました。こうした現場の声を真摯にお聴きし、改善できるものはすぐに改善し、事業制度の新規・拡充に繋げる必要があるものは次年度の予算要求に反映できるように更に努力して参ります。全国各地の農業・農村は多様であり、それ故に各種要請の内容も多様です。引き続き同志の宮崎雅夫議員と力を合わせ、必要な予算の確保とともに、現場の課題解決に直結する制度構築等に全力で取り組んで参ります。今後とも、これまでの政治スタイルとスタンスを変えることなく、泥臭く鈍重でも、急峻な斜面を一步一步踏み締めて前進する牛のように精進し、現場が抱えている課題を一つでも多く解決できるように結果を出して参る所存です。

皆様からお預かりした参議院議員の任期も残すところ7か月余りとなりましたが、まずは貴重な任期を一日たりとも無駄にすることなく政治活動に全力投球して参ります。そして、次のステップに進むためには改選という高くて厚い壁を超えなければなりません。私自身、この壁の突破に専心努力して参る覚悟ですので、皆様の引き続きのご指導とご支援を心からお願い申し上げます。皆様の益々のご健勝とご活躍を心からお祈りいたしております。



新年のご挨拶

農林水産大臣政務官

参議院議員 宮崎 雅夫

和歌山県土地改良事業団体連合会会員ならびに関係の皆様にご挨拶を謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は多大なるご支援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

昨年10月発足の岸田内閣ならびに11月の第二次岸田内閣において、農林水産大臣政務官を拝命しました。これも偏に和歌山県の皆様ならびに、進藤金日子参議院議員はじめ先輩国会議員のご指導とご支援によるものであり、本年も新たな気持ちで現場主義に徹しつつ皆様のご意見をお伺いしながら一層努力して参る所存ですので、引き続きご指導をお願いいたします。

さて、ここ2年に亘り農林水産業はじめ各方面に影響を及ぼしてきた新型コロナウイルス感染症は、国民の皆様のご協力により、昨秋以降の新規感染者数は低位に推移していますが、新たな変異株による感染拡大も懸念される昨今の状況からは決して油断することはできません。

経済安全保障の重要性が叫ばれる中、食料の多くを輸入に頼る我が国にとって食料安全保障の確立は重要であり、そのためには我が国の農林水産業の持続的発展が不可欠です。

こうした中、昨年末には、令和4年度当初予算案が閣議決定され、また、臨時国会で令和3年度第1次補正予算が成立し、農業農村整備事業関連予算として総額6,300億円を確保することができました。

令和4年度当初予算案では、前年度当初を上回る4,468億円を確保し、農地の大区画化、水利施設の老朽化対策等を推進することとしています。また、令和3年度補正予算では、TPP対策や防災・減災、国土強靱化の加速化対策として1,832億円が計上されており、全国の皆様のご要望にしっかりとお応えできる規模となっています。

また、これから国会で議論される令和4年度当初予算案に関連して、土地改良法の改正案を検討することとしており、主な事項としては、ため池等の急激な防災事業に豪雨対策を加えること、農地中間管理機構関連農地整備事業の対象に農業用水路等を加えること、市町村や土地改良区が実施する防災対策事業への土地改良事業団体連合会による技術的支援等を可能とすること、また、組織の維持が困難となった小規模土地改良区について、法人格を維持しながら認可地縁団体等に移行できる規定を設けることなどが予定されています。予算と制度が車の両輪となって土地改良の効果が確実に発現できるよう、引き続き進藤金日子議員とともに頑張る所存です。

これからも皆様とともに土地改良を推進するため、進藤金日子議員と一緒に国政で取り組んで行けるよう、和歌山県の皆様の格段のご支援をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様お一人おひとりとご家族にとって素晴らしい一年となりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

土地改良区連絡協議会職員研修会

令和3年9月30日、青洲の里多目的ホールにおいて、県内17土地改良区並びに、和歌山県、水士里ネット和歌山の職員25名が参加し、研修会が開催されました。

主催の土地改良区連絡協議会 森 義晃推進幹事長の挨拶の後、大畑才蔵ネットワーク和歌山の久次米英昭氏の「大畑才蔵の功績について」の講演並びに世界かんがい施設遺産に認定された小田井用水路の取り組みについて、小田井土地改良区の米澤事務局長から説明がなされました。

その後、歴史ウォークとして龍之渡井巡りを行い、古の偉人の功績を学ぶ絶好の機会となりました。



龍の渡井にて

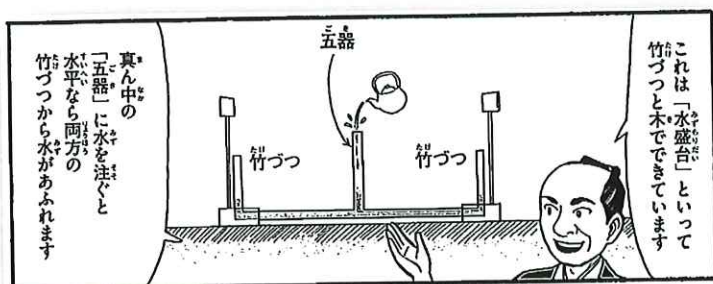
※世界かんがい施設遺産とは

かんがいの歴史・発展を明らかにし、かんがい施設の適切な保全に資するために、歴史的なかんがい施設を国際かんがい排水委員会(ICID)が認定・登録する制度で、2014年から取組が始まりました。登録により、かんがい施設の持続的な活用・保全方法の蓄積、かんがい施設の維持管理に関する意識向上に寄与するとともに、地域づくりへの活用が期待されます。日本では、令和3年12月までに44施設が登録されています。

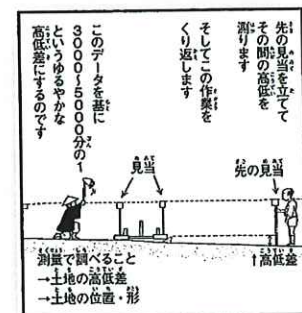
※小田井用水路の登録証の日本語訳(抜粋)

『日本国、和歌山県3市1町にまたがる紀の川水系に位置する小田井用水路は、300年以上前に正確な設計・仕様とともに、当時の水準測量機器である水盛台を使用した詳細な現地測量に基づく効率的な建設手法を導入した優れた例である。よって、ICID世界かんがい施設遺産に登録する』

(平成29年10月10日登録)



水盛台のしくみ



全国土地改良大会（群馬大会）と表彰伝達式

第43回全国土地改良大会（群馬大会）は、昨年度コロナ禍のため1年延期され、令和3年度開催となりましたが、新型コロナウイルスの蔓延が止まらず、やむを得ず、無観客（オンライン）開催となったところです。非常に残念であります。

10月6日の大会式典は、群馬県関係者のみ会場（Gメッセ）参加となり、各都道府県からの参加は、YouTubeによるオンライン参加となりました。共催である全土連二階会長もオンライン参加で、開催に当たってのご挨拶をされました。

県土連でも5Fの会議室において、YouTubeを視聴しながらの参加となりました。



オンライン参加の様子

この大会で、美浜町土地改良区の塩崎理事長が土地改良事業功績者表彰の全土連会長表彰を受賞する予定でしたが、オンライン参加となったため、10月6日の夕刻、藪内美浜町長から表彰伝達をしていただきました。



和歌山県棚田シンポジウムの開催

令和3年10月25日紀美野町文化センターで、和歌山県並びに紀美野町共催のシンポジウムが開催されました。「棚田で人をつなぐ、棚田が時代(とき)をつなぐ」をテーマに開催され、新たに紀美野町の『中田の棚田』がわかやまの美しい棚田・段々畑に認定されました。

早稲田大学高木徳郎教授の「中山間地域における地域資源と歴史的景観」と題した講演、島根県中山間地域研究センターの貫田理紗研究員の「中山間地域活性化に関する取り組みについて」の講演の後、地元の活動組織の代表を交えたパネルディスカッションが行われました。総括は、早稲田大学名誉教授の中島峰広氏が行いました。



シンポジウムは、各振興局にも配信され、多くの地域活動に取り組み皆さんや土地改良の関係者が参加したところです。

第2回和歌山県土連 監事会・理事会の開催

令和3年度第2回監事会が、11月1日(月)に和歌山県土地改良事業団体連合会の役員室において、第2回理事会が11月5日(金)にルミエール華月殿7F会議室にて開催されました。

監事会では、監事全員が出席のもと、理事との契約についてこの会の代表に関する事項について、令和3年度業務・会計・財産の中間監査について、令和3年度の会計収支補正予算の承認についてが議題として提案され、各監事からご意見をいただき、また、理事会では、16名の理事のうち10名の出席のもと、鶴保会長代行の開会挨拶の後、県の農業農村整備課赤津副課長から令和4年度の土地



理事会開催状況

改良予算の概算要求内容について情報提供いただき、議事では、令和3年度会計中間執行状況報告について、令和3年度会計収支補正予算についてが審議され、すべて承認いただきました。

全国農業農村整備の集い（11月）



令和3年11月16日（火）、全国水土里ネットと都道府県水土里ネットの共催による「全国農業農村整備の集い」が、シェーンバッハ・サポーにて開催され、全国の農業農村整備関係者約400名が参集しました。本県からは、望月有田市長、西岡広川町長、日裏印南町長、久留米日高川町長をはじめ19名の会員が参加しました。

大会では、二階会長の主催挨拶の後、金子農林水産大臣をはじめ、石井公明党幹事長、森山総務会長代行、進藤金日子参議院議員など、多くの来賓から祝辞を戴き、農業農村を取り巻く情勢を共有するとともに、農業農村整備の一層の推進を図るため、「令和4年度当初予算について、現場のニーズに応えられるよう、必要な予算を確保すること」等、10項目の要請内容を盛り込んだ「要請文」を採択しました。

令和4年度農業農村整備予算の確保に向けた提案活動

集い終了後、自民党本部5Fの国土強靱化推進本部会議室において、二階会長並びに鶴保会長代行に対して、本会並びにため池保全整備連絡協議会、国営総合農地防災事業推進協議会からの提案活動を行いました。



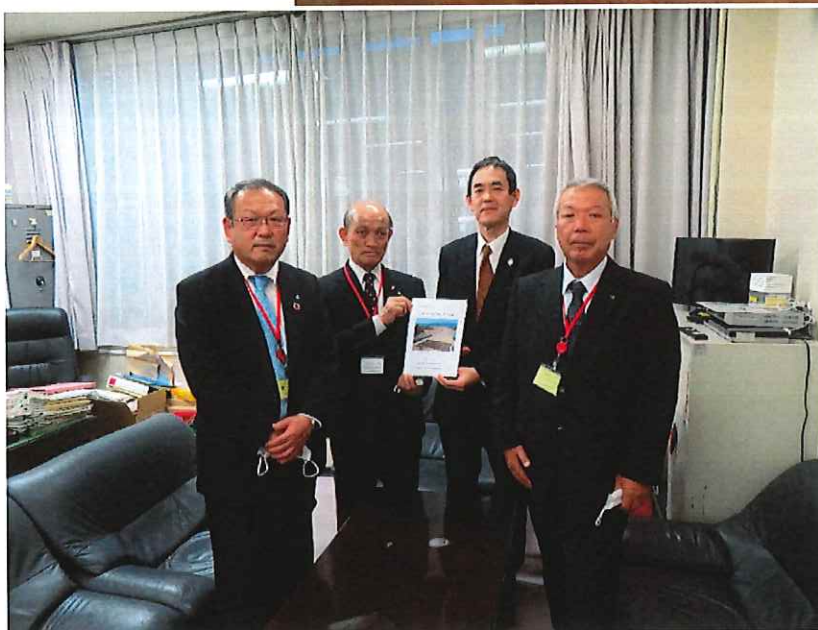
その後、自民党本部から農林水産省に移動し、日裏印南町長、久留米日高川町長を筆頭に、宮崎雅夫農林水産政務官並びに、農村振興局川合整備部長（和歌山県出身）に提案活動を行いました。

提案内容は以下の通りです

- ①農業農村整備事業推進に必要な予算の確保、国土強靱化予算の確保
- ②国営総合農地防災事業和歌山平野地区の推進、南紀用水2期地区の早期着手
- ③利用されていないため池の「利水」から「治水」へ転用する際の支援
- ④多面的機能支払交付金制度の事務の抜本的な見直し



農林水産政務官室にて



農村振興局整備部長室にて

翌11月17日は、議員会館に和歌山県選出の国会議員を訪ね、上記の提案活動を行ったところです。

水土里ネット和歌山女性部会の総会及び研修会

コロナ禍で集まる機会がない状況が続いていましたが、11月18日(木)に日高川町の道成寺前のレストラン雲水において、総会並びに研修会を行いました。

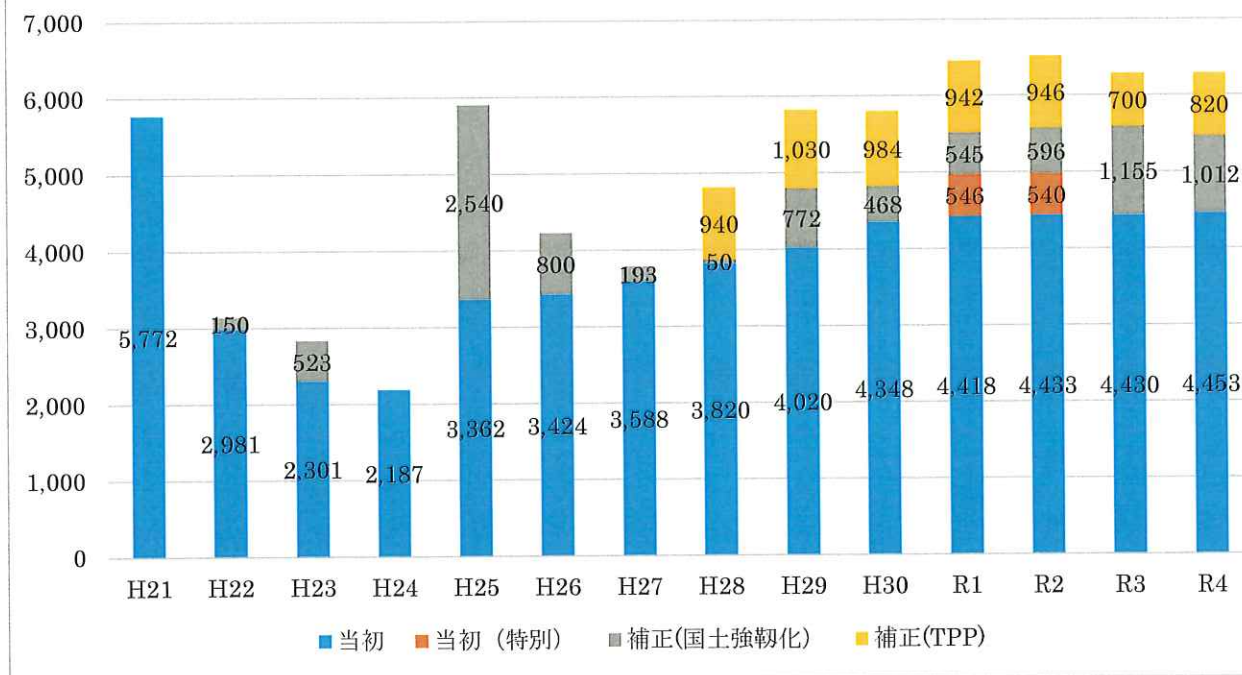
総会では、今年度の取り組みについて話し合い、また研修会では、川辺町周辺土地改良区の山下参事から川辺町周辺土地改良区の成り立ちについて、また、県土連高瀬常務から今後の女性部会の活動についての意見交換を行いました。

昼食後、道成寺において「安珍と清姫」の絵とき説法を聞き、会員相互の親睦を深めたところです。



令和3年度補正、令和4年度当初予算の概算決定

農業農村整備関係予算の推移



政府は12月24日、2022年度予算案を閣議決定しました。一般会計総額は107兆5,964億円と21年度当初予算比で0.9%増え、10年連続で過去最大を更新しました。

土地改良に関しては、表のとおり、補正予算を合わせると昨年と同額の6,285億円が

確保され、政府情報システム予算の農業農村整備関係予算が別途 15 億円あり、総額が 6,300 億円となります。

ため池サポートセンターの活動状況

○ため池サポートセンターの活動について

水土里ネット和歌山では、県から受託を受け 6 月からため池サポートセンターの運営を行っています。

主な業務は、

- ①ため池に関する相談業務（電話・現地）
- ②ため池の管理方法に関する研修会の開催
- ③ため池に関する情報交換（広報誌の作成等）

今年度は、コロナ禍により振興局単位の研修会を取りやめ、年末からため池ごとに個別で行う現地相談会に切り替えています。



電話相談の状況



ため池廃止の補助制度を説明



ため池の管理に関する現地相談



※12月末までのため池の相談実績は、28件となっています。

年度末までに、40箇所の現地相談会を行う予定です。

水土里ネット和歌山からのお知らせ

水土里ネット和歌山では、昨年度成立した「ため池特措法」に基づき、会員である市町村が行うため池の劣化状況調査を11市町から受託し、業務を遂行しています。

12月末時点での受託状況は以下のとおりです。

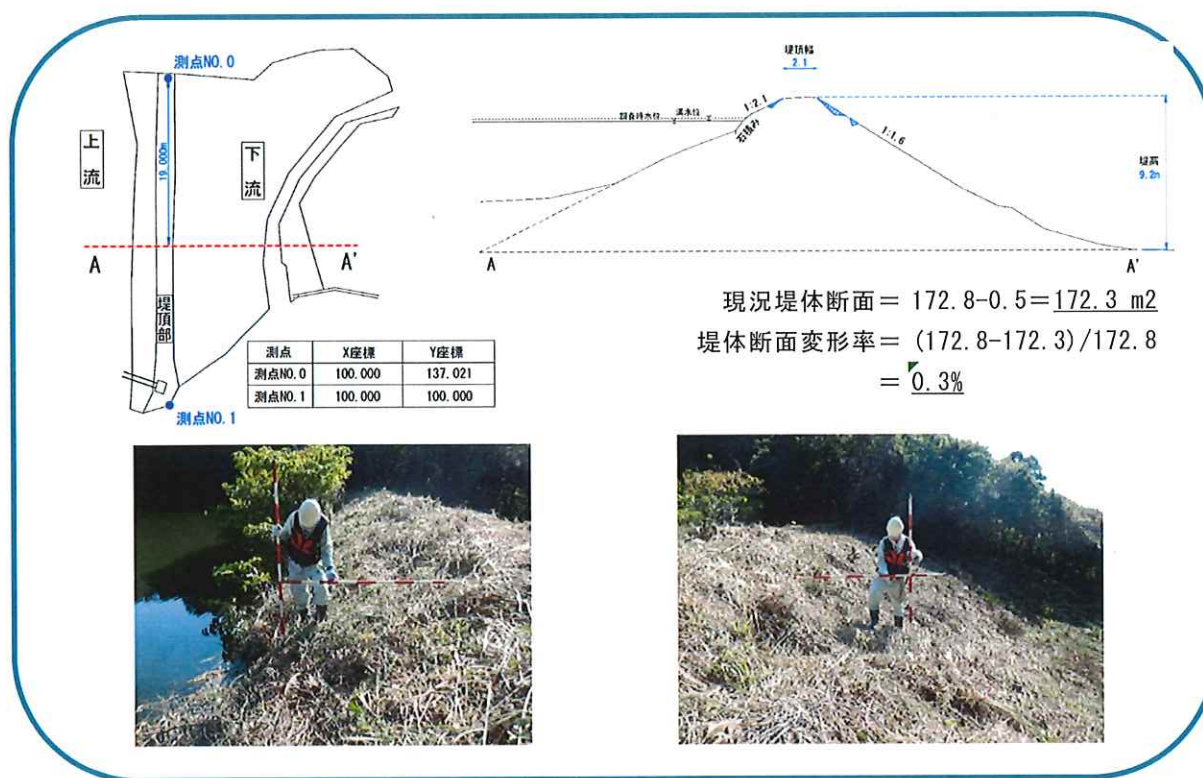
現地において、簡易測量（平面、横断）を行い、変形率等を求めています。

市町村名	劣化状況評価	豪雨耐性評価
紀の川市	74ヶ所	47ヶ所
有田川町	23ヶ所	16ヶ所
御坊市	30ヶ所	1ヶ所
美浜町	10ヶ所	10ヶ所
日高町	35ヶ所	10ヶ所
由良町	6ヶ所	3ヶ所
印南町	55ヶ所	2ヶ所
みなべ町	15ヶ所	3ヶ所
新宮市	1ヶ所	1ヶ所
那智勝浦町	2ヶ所	2ヶ所
串本町	3ヶ所	3ヶ所
11市町	254ヶ所	98ヶ所



管理者からの聞き取り状況

12月末時点の受託実績



【編集後記】

令和4年度に向けて、土地改良事業推進に必要な予算の確保がなされる見込みです。それにしても、新型コロナの蔓延が再拡大しつつあります。会員の皆さまにおかれましては、対策を十分講じつつ、施設管理の充実に取り組んで戴きたいと思っております。

